

海女 未来をつくる は輝かしい

海女文化シンポジウム

2014年3月1日(土)13:00~17:00

2日(日)10:00~13:00

会場:三重県立美術館 講堂

定員:各日約100名(先着順) 参加費:無料

.....
(問い合わせ先)

海女文化シンポジウム実行委員会・海女振興協議会事務局
三重県鳥羽市鳥羽三丁目1番1号鳥羽市役所 企画財政課
TEL:0599-25-1101 E-Mail:kikaku@city.toba.mie.jp

- 主催:海女文化シンポジウム実行委員会
- 後援:水産庁、観光庁、中部地方環境事務所、三重県、三重県教育委員会、三重県漁業協同組合連合会、鳥羽市、鳥羽市教育委員会、志摩市、志摩市教育委員会
- 協力:三重大学、海女振興協議会

※平成25年度 文化庁 地域と共働した美術館・歴史博物館活動支援事業
写真:古谷 千佳子

ユネスコ無形文化遺産登録
に向かって!!

海女文化シンポジウム 開催内容

日本で海女が一番たくさんいる鳥羽・志摩。
 海女の仕事は海に潜ってアワビやサザエ、海藻など海の幸をとることです。
 その歴史は古く、およそ5千年前の縄文時代には海女のいた痕跡がみられます。
 長い歴史の中で育まれてきたその漁法には、自然と闘い自然と共に生きる様々な知恵があふれており、
 三重県の無形民俗文化財にも指定される見込みです。
 さらに、海女の文化的な価値を保全・継承しようと、
 ユネスコ無形文化遺産に登録する動きもおこりはじめています。
 このシンポジウムでは、Woman professional diver "海女"の生き方に脚光をあて、
 海女文化の素晴らしさや、海女が創る輝かしい未来について考えます。



第1日目 3月1日(土)

- 13:00 開会 あいさつ
- 13:15 **第1部 海女は遅く生きている～日韓の海女の現在～**
古谷千佳子(海人写真家)・小暮修三(東京海洋大学 准教授)
- 14:45 **第2部 海女の歴史から学ぶ～日韓の海女の歴史～**
塚本明(三重大学 教授)・左 恵景(チャヘギョン)(済州発展研究院 招聘調査員)
- 16:00 **第3部 海女の資源を考える～海女の漁獲物と資源対策～**
松田浩一(三重県水産研究所 課長)・洪 性完(ホンソンワン)(済州特別自治道海洋水産研究院 調査員)
- 17:00 第1日目終了

第2日目 3月2日(日)

- 10:00 来賓あいさつ
- 10:10 **招待講演 海女文化の素晴らしさ**
庾 喆仁(ユチョリン)(済州大学 教授)
田邊悟(元千葉経済大学 教授)
- 11:10 **海女対談 各地の海女からの報告**
鳥羽、志摩、石川県輪島、福井県三国の海女
- 12:00 **パネルディスカッション「海女は未来をつくる」**
【パネリスト】
小島孝夫(成城大学 教授)
あん・まくどなど(上智大学大学院 教授)
谷村志穂(小説家)・常 清秀(三重大学 教授)
永富洋一(三重県漁業協同組合連合会 会長)
【コーディネーター】石原義剛(海の博物館 館長)
- 13:00 閉会

会場MAP:三重県立美術館 講堂(B1F)
〒514-0007 三重県津市大谷町11番地 TEL:059-227-2100



海女文化シンポジウム 申込先:海女文化シンポジウム実行委員会事務局(鳥羽市企画財政課内)
 「海女は輝かしい未来をつくる」参加申込書 FAX:0599-25-3111 E-mail:kikaku@city.toba.mie.jp

- 申込方法:FAXまたはメールにて申込先までお申込みください。
- ・ FAXの場合……以下の参加申込書にご記入の上、申込先にお送りください。
- ・ メールの場合……参加申込書の必要事項と同じ内容を明記して申込先にお送りください。
 メールタイトルは「海女文化シンポジウム参加申込」とご記入ください。

- 申込期限:平成26年2月21日(金)
- 定員:各日約100名(先着順) ※各日とも定員に達し次第終了

氏名	所属
住所	電話番号
参加日(○印をお願いします)	
両日 • 第1日目(3/1)のみ • 第2日目(3/2)のみ	
備考(※上記の方以外に参加者がいる場合は、こちらへお名前をご記入ください。)	